

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
31	31

※一般推薦（指定校含む）、文化活動推薦、専門・総合推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科では、アドミッション・ポリシーに掲げる通り、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めている。今回の課題は、近年、沖縄のみならず世界的に課題となっている「自然災害への対応」をテーマとした。本課題はアドミッション・ポリシーに準じ、沖縄をめぐる実際の社会問題に向きあいながら、自分自身の経験などもふまえて、具体的かつ実践的に問題解決の道を探ることを要求するものである。入学希望者がこれに答えるためには、沖縄をふくむ同時代の世界に対する知的的好奇心と、高校までの学びを越えて主体的に知識を深めようとする学習態度が、求められる。あわせて入学希望者の思考力・表現力が問われる小論文形式をとることで、本学科が入学者に期待する学力、ならびに本学科のアドミッション・ポリシーへの合致の度合いを総合的にはかることが、ここでの出題の意図である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイントとして以下の3点を挙げておく。1つ目は、出題者から問われていることが正確に理解できているか、という点である。たとえ内容的には興味深くとも、そもそもその解答が質問の趣旨から外れていれば、高い評価を与えることはできない。2つ目は、同時代の社会に高い関心をもっているか、という点である。今回の設問は、近年、テレビ・新聞などでも盛んに取りあげられている「自然災害への対応」をテーマとした。小論文は知識量を問うものではないが、これまで現代社会の情報によく目配りしてきた受験生ほど、今回の課題には取り組みやすかったものと思われる。3つ目は、必要十分な論理構成力および表現力を身につけているか、という点である。よい小論文を書くためには、様々な情報や自身の経験などをもとに、それらを根拠として論理的に主張を展開していく力が求められる。自分の印象や思いつきを述べるのではなく、根拠をもとに論理的に記述されていることが重要なのである。なおこの点とも関わるが、誤字脱字があまりに多数におよぶ場合や、基本的な原稿用紙の使い方をふまえていないケースも、わずかながら評価に反映している。